源氏引哥

八

元もくこう

源氏物語引哥

きり作り

さもこそは紫草のめしのさもりゝめあるまつゝ[illegible]板[illegible]や

朗詠

恙と我いつるつるを[illegible]きん青[illegible]世こそ志ゝまほしけれ

後撰雜二　高津内親王

おもときまゝにまつわけ枝まゝ[illegible]をけ[illegible]吹[illegible]をいふわりき

古今恋二　友則

ことに出ていはぬ[illegible]ひそこひきものを

万

夏ゝ[illegible]もちにも[illegible]ぬ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

古哀傷　伊邪勝延

うき世にはかどさせりともみえなくになどかわが身のいでがてにする

拾遺恋五　　よみ人しらず

わするゝをいとふにつけて我身にこそ人をおもひのやまんとはせめ

あり時はありのすさびににくかりきなくてぞ人のこひしかりける

嫁林中　　よみ人しらずも

人はいさことぞともなきながめにぞわれは露けき秋もしらるゝ

古恋三　　よみ人しらず

むばたまのやみのうつゝはさだかなるゆめにいくらもまさらざりけり

後雑一　　兼輔

人のおやの心はやみにあらねども子をおもふみちにまどひぬるかな

新勅恋上　　紀貫之

わがそでは名にたつすゑの松山かそらより浪のこえぬ日はなし

六帖五

いかにしてあはむとおもふ住吉の松のねぶりんとも

後雑一　　兼輔

人のおやの心はやみにあらねども子をおもふみちにまどひぬるかな

朗詠

春ごとにいつまでかゝる世をすみなん末の世にてもまれなれ

後友　　雅正

花の色の花もむかしの色なれどなにかはかはるすまのあり

天暦御集

いにしへの世ならぬものを後の世をながきねぶりとなりもせんかな

伊勢集

むまれあふもしらずおもひやしなんとおもひけりとや

拾遺　　能宣

ゆひそめしゆひのむすぼれとけぬまにわがなかうらみとこそ思へ

たくさんく

拾雜杖　　僞正遍昭

あふしもなふ[illegible]ん女[illegible]人のまれひさうふくき世に

新古今無一　　在原業平

[illegible]

拾無四

[illegible]

拾物名

杖[illegible]のまも[illegible]のうきて[illegible]

古雜下

今さしにとふへき人[illegible]

古雜諧

[illegible]

後無五

[illegible]

古友　　僞正遍昭

[illegible]

伊勢

[illegible]

拾雜賀　　平定文

引[illegible]

古雜

[illegible]

後杖上　　閑院

[illegible]

後杖下

みなとへ杖ゆをあつらへ[illegible]みちそしとやかましき人ぞ
拾雑　伊勢
きみそておいくらなれはこゝろも[illegible]やさみてゆくと見ゆるぞ
催馬楽
飛鳥井はやどりはすべしかげもよしみもひもさむしみまくさもよし
古杖下　よみ人しらず
杖なきみちの[illegible]ふみつゝ[illegible]を見てとふ人ぞなき
古杖上　よみ人しらず
おもてにはおもふ[illegible]杖[illegible]の枝と[illegible]ける白露
古文　とも
ちりをはなはとくそて[illegible]よりゆめとわかなみとも夜の花
後杖上　よみ人しらず
ひとつ[illegible]なあふ[illegible]のさと夜[illegible]もあきをうちら

世中[illegible]人ならしく如に[illegible]かくれ[illegible]の[illegible]ちはぞ
風俗哥
むかしのころの世中にまゐてあつ[illegible]ものとやさしなちなきはさら
おもふこゆきの[illegible]にとあるあきぞよ
催馬楽
さいつんどきうちやまもまされ[illegible]むとまもきん
みさうろはあそゆまきんあきつひさうそそうせいけん
拾恋三　よみ人しらず
[illegible]あきしかれ[illegible]ひつらとかん
[illegible]も世中も[illegible]
万
[illegible]のちを[illegible]の[illegible]あかんなる[illegible]
古恋五　よみ人しらず

それをさにしかとして我宿をみきとれいひそ人のさうな

新勅恵二　よみ人しらず

お坂のみ城はこのうてこりとも人をもへつつをれの時らす[illegible]

恵しさ成なかつけてうなくさまん夏ゆもみすぬ[illegible]

新古恵一　是則

そのさらやかをやにおかつさきれあるとみてあらぬ[illegible]

うりをこ

万

夕やとみちたとしはまちてかれわせこそのまをまん

六花集

いよれゆのゆをこれすはひくり人をきへれちは十六

六帖二

風ふけと人ゆはいひてかなしきしあをんと君にいひて地を

拾恵二　よみ人しらず

君をかつ洞のうぼ冬れよはあ[illegible]しうらいやも祢らく

よりなさめひるはなりめにくらされて長れのめそいとなりかう

後恵三　これまさの朝臣

もくうやまいせおのあまれをて安志かなれうを人やみるん

古恵三　平貞文

枕うまくこしる人もなれ恵を洞をれあへをかしいつ[illegible]

とりせへを拾うとうちや世中をけりしなりしなりとおもん

々今か

古雜下　よみ人しらず

世中はいつれはしてわうなんゆきと海のをそやとこさ[illegible]

六帖

なにをんよおのうてちも人をむくてさへん宿にやうらよ[illegible]

古拔以哥

おわたれをちかた人に拍ゆ寸ほれそのそこに志ろく咲るは何の花そも

古雜上　業平

世中にまさしぬ事れ無なくかなの世りとめつ人のこれなめ

古志二　友則

夕されは堂よりとまたにもあれともひかりみはまやへのつれなれ

万

あさかし寸いてくなくきそわせこうあさけれとうこれなかなしき

古渉　深養父

冬なりしまれなりれちりまれは中垣よりそ花いちりけり

うまそくかをこなふ山の志ぬりしあなそれにさこめしあらはれ

万

あかなれおき中河にさしぬとも君とうてしぬことつきめやも

古拔上　俊正遍昭

里はあれて人はゆりは宿なれや遊ままりれも拔の野なるか

新古雜下　よみ人志らす

白波のうすうなれさに世我はしらすあまれなるれやともさしめに

古志五　典侍藤原立子朝臣

あまれるりにまもしの我かとは極我よそなりあ世をいらし

六帖

君にうつしとうとうとうとうとねをのこそなくようとうとうとと

後雜一　ひかきの嫗

年ふれは我ゆるとも志ら川の今ゆとらむまてぬにせるかな

拾志四　よみ人志らす

志ふとていとしも人にあれさしんしうなしひてそこしは志しき

拾志四　よみ人しらす

[illegible]

万

[illegible]

古意三

[illegible]

古意四

[illegible]

[illegible]

新古意下

[illegible]

古雜下

[illegible]

万

[illegible]

[illegible]

後撰尺

[illegible]

大傳正意恵

後意四

[illegible]

催馬楽

[illegible]

拾遺

元良親王

あさまたき花摘そへてみつる梅の花の色は見るにしろめてよ

古序

浅香山かけさへみゆる山の井のあさくは人をおもふものかは

くやしくそくみそめてけるあさけれは袖のみぬるゝ山の井の水

新古哀　上東門院

あふことも今はなきねの夢ならていつかは君をまたはみるへき

伊勢

出ていなは心かるしといひやせん世のありさまを人のしらねは

古恋四　よみ人しらす

堀江こく棚なし小舟こきかへりおなし人にや恋ひわたるへき

古恋一　よみ人しらす

いつとても恋しからすはあらねとも秋のゆふへはあやしかりけり

新勅恋一　よみ人しらす

あしわかの[illegible]

人[illegible]　衛門

万

[illegible]　よみ人しらす

後拾恋又

[illegible]

[illegible]

ひさかたの[illegible]

古春上　素性法師

みわたせは柳桜をこきませて宮こそ春の錦なりける

六帖又

しらねとも武蔵野といへはかこたれぬよしやさこそは紫のゆへ

古雑上　読人不知

実方集

伝明集

六帖

拾雑冬

俊馬集

六帖

古歌

拾

中文あり

六帖

業平歌

元真集

いけ[illegible]
あ[illegible]

万

[illegible]
[illegible]

風俗歌

多[illegible]良女乃花如加以祢利好年夜滅紫色好年

拾遺三

[illegible]

拾遺

[illegible]

古事上

[illegible]

素性法し

[illegible]

古雜下

[illegible]

葉平 [illegible]

[illegible]

万

[illegible]

拾遺又

[illegible]

一条摂政

[illegible]

謙徳公

[illegible]

後雜一

[illegible]

兼輔

[illegible]

新古雑上　恵子女王

よそへつゝみれど露だになぐさまず[illegible]

後撰

[illegible]よみ人しらず

拾遺　坂上良女

[illegible]

古恋四

[illegible]よみ人しらず

古雑上

[illegible]よみ人しらず

[illegible]

小町

[illegible]

[illegible]の日記

[illegible]

新勅撰雑下

[illegible]よみ人しらず

後撰　中納言[illegible]

[illegible]

催馬楽

[illegible]二段[illegible]

[illegible]三段[illegible]

[illegible]

催馬楽

ありまやのまやのまやのそれあまそくき我さちぬれ
ぬさのとひくらを二段手すりひもとさしもあらはしそ
我れとんのと我さてめをしひくひてきませ我や人命ま

古雲滅　そともりひめ

わりせこうくへきこうひまりちゝまれるのつまひくひてしるも

六帖五

くれなゐ人をとめ我衣しるにさんうへにとりきはしるうらんも

新勅集四　よこ人しらせ

まうれての後そうあしき洞川をこもあらはなりぬと思へ

催馬楽

石川のこまうとにおひをとられてうしきくひしるう二段
いうるんいうんなるおひそもなるこれ常のなるハ人ゆくるる

三段ゆくらやるうありまとうこうる

古雲滅　こうこ人しらせて

ぬかこれ森の出るいさやいさとこそ我かぬもしらすか

花のえんん

新古来上　大江の里

ちりもすくりとそてぬ美の花のおもかはよに志ら拘れ

催馬楽

ぬき川のきこれやけしさ海くしやけしうまぬる夜はなくてお
やさくるつま二段おやさくるつまはまきておりしとしり
あらはやもきのいちまくるのまんこ三段くりうちうのか
そしきをうへさしもきそうそをとりきそこやちうはん

古来上　伊勢

みる人もなれ山里はさくし花ほうのちりなんのちそさうほし

後狀下　　藤岡大臣家

あつき弓ふさの山ぞ狀きりぬあこうことにやいろまさはらん

あふひ

古瀧　　よし人しらしも

我をしらぬ人をなまぬむらひまや我しらぬ人のこれをなとぬ

古大哥一帖

きのふ風ひかへまはに物とあてしかりあふへかるはしらみん

後拾祚　　周垣内侍

まかししも人をしてかけしあはちはちらぬまみちそなかなる

後

ゆかへ今八十氏人のおうつゝかけてそこのむあふひてふなを

古義一

いそのあまつりすあまはをるまやふひこつをはらあらはる

くやしくそくそあてけるあさられは神のこゝめるて山のあふ水

古雜下　　みつ

身をすてゝゆきやしぬらんしらふ所なる物はこゝろなりけり

なりけりとしらふも物はしらふなりけりとしらに物もはしやなそ

後拾祚　　和泉式アー

物しへは浮のはらるもわかりあくれいつゝ海ゝとそみる

伊勢

しひあまり出はしのあるあらん袖かくみたしむすひをよ

むかしのぬしをそれとも思ふねともむすひそこもるしらへの

後雜二　　兼忠朝臣母のめれと　つま

むすひをしきしかくこれなりせいなるにしるしの武家をつまし

古義　　忠岑

時しもあれ秋やかへのとうるへきあるをみるに意しき物を

一続古秋　夜則

吹かれは身ゆとまきけるは花をくるに物と切りひけるな

拾雜上　よみ人しらず

世中をうくいひくてとてくはいりゆやいりにるゝんとまたん

古誹　大輔

あけきうる山をしたくなりぬれはつゝ浅えのこそまつ鶴

袖をはいつとまられはゆりしうとうく袖ひつゝ打はなるとき

後集二　浅しゆき

色ならはうつりに深てほしさふ人我ゆやとまをける

拾意四　深養父

うれしくはわまることもふこはほつゝ花をなる花をなる

みなれ来れなれそなまてをなれなるえ意しかゝんや思ひしや

古別　きつめ

命さにかまるふ花なるはなるゆうわるまつるまつ

万

わるまれゆゑ海ゆをまれそめて花をやさそんゆつゝあるま

新古意二　人丸

みりするかりものをのゝなしとのなれはまさして思そまさ

古誹　よみ人しらず

我をのこゝふといまくあるへきはいてやんそ相はぬさみて

新古秋　浅しゆき

をく霜ふくをもうつゝぬさ来れ花をやゝ人のとめてさふ

万拾意一　人丸

ちまやふる秋ゆいりきとうゝあもいまは我身れ有しまくの逢

古雜下　よみ人しらず

我庵は三編の山すとこひくはつしてさまを様そうなと
神奈奇
ほうまは此をうくはしことあられ八十うち人をまとおをかる
古来四　よこ人志ゝまて
あまの原ふこさとうりしなる神也ゝ中をたさくるものかな
人和拙語
池は我むりしなるに此をこゝにて紀うしさみなるにそうなるき
あたさりし泪のまるくなりけり世やつきぬらんさきやさぬん
古雑下　よこ人志ゝまて
世まふれはうきこそまきれみよりの岩のかけ見ふこなしにん
新古来四　よみ人志ゝ寸
あまの岩をとしあけて妹にれ今此人志とそこひしなるなる
新古義　一条院山奇

おきをも此家のやさりに見れとさてちりを出るんとそうなき
伊勢
なりへの志のをさまれらり返むりとにはなすりしもあ
古村下　つゝゆき
みる人もなくてちりぬるなりしなすみちはよるなりしきなりし
山さくらゝにゆみちをへられ公すゝも人のんなるなきなり
後雑四　むこ
今すなゝめ身のこ地るとなりほてまるゝ主にぬにけるな
元良
人にあるんのなにかゝへるやあまもあるにもちにしくるゝ
拾表　行基
ほきさやまをわうえしとはたきてうるつこあんこつへてそ返
後雑一　素性法一

をとにはく松ろうしきたるあるあまはすみかう

惟馬系

ゆうさとのさいさとのさとの二段なの中そろ白玉樓
たきやちの三段それもうとさんましまうとまし
四段 祿りをさとおのこうゆまさんあやちまき 五段お
あしかもさんあるしかもあしかも六拍ゆとまさ
んゆりまるのさゆりまの七段けさいうちのしなな
あはまし地紙さゆりまり

花ちるさせ

奥入

くこえ〇とともまきまきまきまきはもあり
いましへのとうこへはとさひいかまりてかふるまるく
さち花のかをあつしとはとさひさしひしつちかぬはそあ

波广

古別

あさの常ぬちかくこくわかるまゆれめかりてもあかんとせふ

友則

よこ人しらせ

古意二

秋意ハ別来もしすまてもはあまりとしまうそ

古意

かりそめ歌きかひちとそひうしまはかきかぬとてあ

在原しけれる

伊勢

いへいへいまくひねまさかれてひとのはあけくとあるな

古雜下

よこ人しらせ

いるしんしかれ中ますまかハ世のうれとせさてきん

古意又

伊勢

あひはあひて地しかしかれ我をてまやとるはさんぬるかあ

後離別

ゆくさきをしらぬ涙のかなしきはたゞめのまへにおつるなりけり

後離別　　よみ人しらず

君かゆくかたにありてふなみたかは袖のみぬるゝしるへなるらん

新古哀　　小町

あるはなくなきはかすそふ世の中にあはれいつれの日まてなけかん

古歌下　　深養父

日くらしのなくなる山のよそにのみきこえてかへる人をうらみん

新古秋上　　赤人

このゆふへふりつる雨はひこほしのとわたる舟のかいのしつくか

古歌下　　行平

たちわかれいなはの山のみねにおふるまつとしきかは今かへりこん

君かゆくこしのしら山しらねともゆきのまにまにあとはたつねん

白浪はちらさうくさうくらすまて波のみなとやかへるらんとそおもふ

六帖

やさきまてうきそふるまもなくまつらむるさもゆらちさん

後歌一　　兼輔

人の親の心はやみにあらねとも子をおもふみちにまよひぬるかな

世の人はあやふき物をとほそへにのりてなかれぬへく

古秋上　　よみ人しらす

あきまつをかほにたちもみなれてつなきはてはなとなき

続古羈旅　　行平

さひしさのかきりもしらて関の戸にあかすまつとやゆめみてそ

拾歌恋　　よみ人しらす

浪のうへのまゝきれきやきえてのちそこのほかにそくるか

玉歌二　　三条

波ぞ[illegible]

古意一

[illegible]

古雜下

[illegible]

新古書下

[illegible]

坂雜二

[illegible]

催馬楽

[illegible]

拾意四

[illegible]

あり

[illegible]

下略

[illegible]

坂雜三

[illegible]

拾雜杖

[illegible]

忠見

恵美集

[illegible]

新古雜上

[illegible]

俗馬乗

いきは海のきよらはなきさは此ぬかりはなのりそやつまんうひや
ひろりんまやしろうたん

古意一

よこ人志ゝまを
しまはなのかつことそまきにはうたふ出と志ひしものを

新勅賀

よみ人志ゝまを
うれしさ我首は神ふつこけ里こよひは男ふもまうぬうれ

後雜一

黒主

何をんよへてのこゝめ我ぬきん笑きひまり我うのくゝ男まて
意しさもまてこゝぬ人のいひてこゝ何まものくなやましさうな

古雜

よりん人志ゝまを
ありぬやとんこそしあひこひはさまふれぬくきまてそ意しき

後去下

源信明

あてしよ此はと花と我おるすしくれん志ゝまんへこゝたや
しかとちいさみよゆうん玉は鴻入江のそこに志ゝりむはうまを
久ゝ此は毛の袖をおまやこゝさゝ我まつうな

後拾雜二

和泉式ア

やまとひまきさ我人そはてさゝめいうふ泉ぬるを此ぬるん
はすれしとちうひしこと我あやまこみさ此の神をとれ

後意四

よこ人志ゝす

おほくは君とならひの池まそ男我なけつとも人にまめ

後雜一

菜捕

人の見やのはやこにあらねとも子我ぬふみちにまとひぬうな

拾意切

右を
はすゝ海ゝ男をはなもうすちうひて人の命此なしなもあうな

万

古雜下　みつ子

今さらに何おひ出らん行乃此ちきふし出けき世とハ志むや

新古書上一カ　志賀皇子

思ひそくさるひのうへ思やらひの里に出るまに如にけるうか

古雜下　よこ人志らずて

世中ハむりしらやかうりまん我身ひとつの為まなれるう

古雜下　とのくへのうしか

よのうれめみぬ山路へいらんまハ思ふ人こそほうしかそれ

後惠三　これまさ

まくう山いせおれまの桂衣志ゆなれうりと人やみるらん

まつりに笠もありてむかつくさむきの神となるそう遣き

拾冬　忠見

年ふれハうれ白山おひまそりおほく此冬のゆきはとりて

古東哥

みさふらひこうさとりせこやきれ木此下家ハ面にまきれり

古雜下　よこ人志らずて

我庵ハこれ此山なとひしくハうつてきませ格てそ門

いとこそまさりに成されこまりといひまたらふと此つてき

後　みつ子

ふうへし人ハむへそおひまれ桂の木たくなりにけるうか

古雜下　篁

思ひきやひるのさうれおとろへてあまれなさ此ひさりきん

古秋上　よこ人志らず

見思ふ君にやつてたゆまちむ乃そうなりけり

きさや

古東哥

ひろ○我祝にしかしく吹風を人まもりやことつてやらん
まのくめにのこす命をえてしかなおひてさしかひなるへく

雲風

古意二　つらゆき

家ゐるゝ我花にをそめてうきふくことにかのこひそつ
みなれ木のこなれそなれてもなれなる意かしらんや意かしらや

古雜下　平貞文

あつまとてぬ命まつ風の狂ひうらうらと思ひくしけすもうか

伊勢

世中にはしぬ別なくもうかる世もといのる人のこれさめ

古羈　人丸

ほのくとあつ此浦乃朝きりに志ほ見えしをしそ思ふ
をのえハ朽なえまくこもすまをうへんうら世中にかへくまをうか

世中はいくへくるしくなりにけりおくみしうくしふまちはし

元真集

里さ我きいつふせとらせくのこは志りもしまひ○は志りなるらん

新古雜下　天暦御哥

都らりくもれ八重くりおくしのこ河の名やまをみよるらん

古雜上　おき風

淫をうもしる人まさんこる袖の松をむすしれとことなるなく

伊勢

今まてまわまれぬ人は世にはおしをのうき海くとしのぬ

古雜下　いを

久まれ中にはひくるはとなれは光をのみそ身のむへなる

新古雜上　三ひ

あいちにてあいとしるうにはしれ此をしたひはとこなるかも

をのくえハ　おまをまた

祚系

その二度をや我まゝれまゝさしてふさはなりかんくりも
さりまゝはとゝまりかん
うそいろいろふあれとおふん　ををにまりぬあしてほて

うす雲

後意三　女

やさかへて縁ゆをみす如あれいつきとこゝ多のあかんをまた
　　うる

拾意又　よみ人しらす

うしとその後さへ人の法かしいかふひてか祿我まゝまほ
　　よこ人しらす

くこひん物とおひておひまきんのうしそまさしうりける

佐馬系

様人そのあひちくめ三度つゝ我とまちほくまつこそか
へりこんやそこやされかへりこんやそこや二度ことをこそ
あすともいそあをちくこに法ささるせかなれかあまて
をさねこしやそこやしやすをさひこしやそこや
世中ハ夏のわたり此うき様うちわたしつゝをの我こそ有へ

古表　うんつけのこねも

深草此野へのさくらしんあまをことしたりハすみそめにさを

後後雜中　よこ人しらす

我ゆゝ人ハ草葉の露なれやかれそて此んそほつゝん
むまそほれもしそふりをいふをんあるにかけまるに葉を

拾雜下　つゝゆき

まれまゝひみそれてまゝ此時まつけてこりかんを

古意一　よこ人しらす

[illegible]

後拾遺上

梅ゝ香をさへしの花まゝ[illegible]　中原致時

新勅意四

あはさらひさへのはなるゝ[illegible]　よみ人しらず

あさうか

伊行尺

意遠のみうさ[illegible]

住吉物語

[illegible]

古意四

里人のことは[illegible]

伊行尺

[illegible]

拾遺

[illegible]　聖徳太子

伊行尺

[illegible]

拾雜下

[illegible]

後拾遺三

今はこしひさ[illegible]　[illegible]雅

意[illegible]

[illegible]

拾雜状

[illegible]　元輔

拾遺子

あらふのこゝろしきみつ雲れ雲ころくまふるにはをるかな

をとと統

杖ハ雲ハ分まくれそたなるゝね萩の上風萩乃上てこつ也

催馬楽

あ絡をしかへきんやさきんさちわきぬハ雲ハ原志の原

萩の葉をしりやさきんさちや

雲ふつ花をゐのりもわつとや晴を寸をのうなるかなん

読古杖上

友則

吹られハ身ゆゑ志ゑけり杖風をいろ雲花ゆゑとおりひけるかな

祚楽

こそくらハわりにハあらす天まま寸其思姫の文のこそくら

拾雑意

人丸

し女子ハ袖かつ山のこゝろきのひさしき世ようなまおりひ紐てき

平度綿度義邑度綿左備須毛可良多万

平多義度迩麻波底平度綿左備須義

拾意一

人丸

みくまの浦のたゆふまゝ今ハ人とこにあらぬも

催馬楽

あなさふとくふのさふとさやいふしへもわれ二路いふしへも

くやあるとくんやくふのさふとき三路あそれそこよし

やくふのさふとき

むかつ

拾義

為粉

世中にあらしきりとしふ人なきつ物ゆくもなりにけるかな

古里雲滅

[illegible]の[illegible]の[illegible]やいさとむらへまとられりしすか

伊勢

[illegible]

古雅下

[illegible]

小野篁

[illegible]

古意一

[illegible]

雅祈

[illegible]

伊勢

[illegible]

大和 清古意二

[illegible]

万十一

[illegible]

[illegible]

拾遺上

[illegible]

拾遺上

[illegible]

古賀　素性法師

萬代を松にそこ[illegible]いそひつゝちとをぬきにしまんと思へる

古二十　大伴黒主

あふこのやうこ[illegible]をさそこれ[illegible]そそこゆる[illegible]をも

拾賀　三条太政大臣

[illegible]松のかゝめしまはきみかゝ世をひかんとゝ思ふ

拾春上

松のうへまちて鶯[illegible]をさそこそ[illegible]の日とはいふへかりけれ

[illegible]神[illegible]さかきよ鶯のをとをぬ里はあらひ[illegible]

伊勢

出ていなんかりしといひやをん世のありさ夜を人[illegible]

惟成

鶯のちらねを[illegible]花の[illegible]

声鈞いそころ　引哥　[illegible]勤

五十

梅花さけるをうへ[illegible]あれ[illegible]りしもあらす鶯[illegible]

催馬楽

このとはむかもとみやりきにくさはあれさにくさはれ

[illegible]二[illegible]さにくさのこゝろ[illegible]ふとのつくりをり

やこのつくりをりや

古雑下　しか

[illegible]

古雑上　忠孝

[illegible]

拾別　つらゆき

[illegible]

後撰雑一　　素性法し

あたらしく松なく鳴なるらむへともなくあまたかすはてゝ

くさりあかるれのきこえさかれされ共なとてゝみねまた

信明集

あさくは今そ春のめてたしともなかえつきそめける

催馬楽

さけのみのむれつむあやちしのつめちるやれそのよ

それ二所それそのまにれとはちそやまれとかるあ

てやめむしらなく

こてふ

とよの秋　　　　　枇杷中納言

今さまつそのはわかやまのみちと月のはてにぞさらよ

後撰哀上

友則

かの面にあや吹きたつる春風や池の氷をとくとくらん

よとよ人まつまて

りしまさんとのこえて手山あれや今人のとりそれ

催馬楽

あれはてゝとさやまなくとそれをとかめ寒き妻

古今恋

安倍清行

波の音の風さわぐとたさゆらぐ袖やれてまは

あらん

催馬楽

青柳をかたいとによりてやおけや鶯のおけや二所

鶯のぬふといふ笠はおけや梅の花笠や

後恋四　　　伊勢

わかやどくなのむすめのふ民のかほのしとさしこえ

あは

古恋一

よさ人まつまて

わかさの梅の頃ゆえに常ぬ者にちれぬべきこゝひも寸なる

六帖

ぬれぬ人ハ今日山頃そうらけへてそゝ御身ゆゑ君にこそ

いつ汁意の山頃ハ今まれもとりぬる人まとゝへて

後嵯峨下　三条太太臣

きりなれぬにおふ者の葉なれハそこひも寸ぬ其の中

意まひぬおかしこの松のおかしこハ其にいそゝやおかんと

かゝる所　いそまし

実明親王

神代ゆゑいむとゝいふなるさまこれ人をみるこし

頃古文　つゝゆき

ミクれておかつゝ者りぬおやめ葉なる紀ゆゑ人ハひゝなん

とこ文

かさむしたゝ意もこそ子と蛇の子のもとゝ寸紀分もかゝし

後嵯峨四　伊勢　けよなく

秋やとゝたのむしし此に若いしかなほうさとさしこそハ

催馬乗　あめ

まひへんをとうちやうをもされる紀分若きませむこ

万　まをんにきく

岩代の野中にたてろむ寸ひ松をとけ寸むし物へ

催馬乗

ぬき川のせて此やかゝる海ゆゑや　葉のえんと委

拾嵯峨四　人丸

さらち子のおやぬふこのまゝもこりいまゝもあるかいも

こさらましかハ　川奇未勘　まあそすそ

拾嵯一　よこ人志ゝ寸

さらぬ○のなやれいきめしてこそ抱也ふ間のわさにたえ[illegible]

古誹　さぬきこ

稀きこと我さのこゝきてけんやしるれそてはなけきれ枯と

万　ちるらめ

あかりのとほゝ立む梅の花をこそ飢もなりしこなりて[illegible]

され心の中に思ひ入れてなりしお出るる時さくもおろ[illegible]

拾義　行基

なをきやうを我ゝことはこきてこりなつこめ[illegible]つへて[illegible]

古意一　よこ人しらせ

人しれぬ思ひやなをとあかきぬまちかけれも逢りぬき

後意二　和八条法息和

立ちらかけふむりちをれと涯かなこそ生れをしへ

六帖云　[illegible]

しらねたむさしれと只へ[illegible]れぬよしやさこそは此家の[illegible]へ

あくさのこますされ池の稀ぬるそはいとふまたゆう掬[illegible]

六帖

あきそを狩れ[illegible]海にみるを川屋のこゝろの手なる時

古意四　よこ人しらせ

みりぬかれ川の人の岩波のなこになをりて我ひめやを

[illegible]

六帖

初をのしらしく吹へ我せこう夜ぬとそのうらそさひき

古意一

夜なれいやとに少手ぬるやつまゆ[illegible]のいまてわう男下[illegible]

のこさ　まをん

後村中　伊勢力

うへさて恋ゆゑ恋めゆゑ恋なれハ恋とみてや家も恋ん
拾新下　よミ人しらす
春ゆゑ恋のひと今まさくかり地のおかれハ杜そまさ逢
拾新下　つらゆき
春秋ハ恋ひ合されてわきうひ時ハつけつゝうつろハ
後春中　よりん人しらす
大宅ハ物ハかりの神りかなまさく花成風ハまかせし
古意四　よミ人しらす
交城のかとおら如此秋家をかゝ風を待と君をまて
古意一　待らゆき
山さくら家のまゝ君ハのゆゑ人今そ恋かりそれ
後新一　兼輔
人のなやみたやこにおらねとも子成ゆふみちにまとひぬるな

こゆき
いろ所ていふかりんをの山の今ハかりなるをとなり如此
伊勢　行平
なきれさひ今をとゝそう家ふかりとうさ同もなくなる
明石巻
志ほくとまゝ同そなるゝかりそめ如ろめなあま如さゝなれ
新古意一　よミ人しらす
大宅のみちかれてなるひさも昔如ゝと計もあかんとそ家
後意又
まひぬれハ今ハ心物逢新成なるゝ成つくしてもあかんとそ
まゝさへてよりぬ濃ハをさ同も人の笑ハいくとうなる
恵先生集
夜なれと夜とも生てもなる成月如つらの新よくれて

拾神系　人丸

[illegible]

後拾遺三　道雅

[illegible]

義孝

[illegible]

後冬

[illegible]

六帖五

[illegible]

拾別　菅家

[illegible]

催馬系

[illegible]

古今上

[illegible]

万

[illegible]

新古今一　延喜法皇

[illegible]

後古今下　和人

[illegible]

伊勢　古今四

[illegible]

後慈一　任勢

[illegible]

風俗上聖言

[illegible]

万

[illegible]

後古慈一　よこ人志ら守

[illegible]

山吹を宿ようへてはるとにしひやますよひそまさ

六帖六

[illegible]

古慈四　よこ人しら守

[illegible]

梅ゆえん

古慈上　よこ人志ら守

梅の花さちよるかりあり[illegible]

古慈上　友則

[illegible]

僧高采

梅ゆえにきゐる鶯や春かけてそれ二所[illegible]

[illegible]

古慈下　素性法師

[illegible]

拾雜慈　一条摂政

花の笑ひあり寸みなとも當れ祿つゝ此枝よりまゐられ給
中務
ちる花人のうれとゝめまゐる水くき絶みなに泪のあられけるか
六帖六まめなれと
よしさてとよ花名をたするゝ也此きこゝ此なん志とろ
古渉
ありぬやと心とうそゝあひ今ひたさらふれなくきまてそ意
よみ人志らす
後意五
もちすも此人へつれちる花ゝ心をそ抱あらひかつくといふ
よみ人志らす
古意四
いかりと志ふものゝと更まゐ漢人しらす
後のうし義
伊勢

人志まぬわかひ後のを花ありなひくとにおもふ祿なん
後志下
つゝゆき
君ふさにとそれてふれ後の花さそうれ時も志られ分り
夜ゆそ咲かゝ里ゝられ此花松をとのこと志ひけるか
後志下
春日さす後のうしものゝとけて遠志て我も都まん
新古意一
能宣朝臣
いくかへり咲ちる花をなかめつゝ抱志ひくゝ後志まあふ見
催馬楽
あしかきまゝ花かきなてゝふこ寸とおひこ寸とかれ二臣
てふこ寸とされかたまゝこれと絶なやまゝうくまゝ
なうしを三臣とろけるこれ家この家れをとよめ
なやまゝうよこしまゝうしを四臣あめつちれ絶を

くるもまつらうちまくへこれもまうらしまうさまと
お照 須々れ孫のすゝかをとうるさこと紙をれはさく
これもさくらか
新古書下　新古ゝ　つゝゆき
みさりなる松まちされる数なれとをれこゝろとそ花は紙
須後意二　伊勢
意しさに志ある拙とはさしとも世れさめまもなりぬへき
僧ゝ系
くもくちのを紙のあらうきやせきれあらうきやまも
まともれ二照夜のれとしてこれぬやいそこれ
孫ぬやを紙のあらうき
伊勢集
おまこれあくるもしてて孫しぬ義ゆをみしとしひ新や

孫くこれの紙ゝの花枝きりに物もくしけくみゝぬ君なる
伊勢
あとてくあふこうこに数ぐん水のしきとむまれし拙を
後雜二　よみ人しらす
うれしきもうれしきもひとりてわれぬものはなみこちりり
ひきやきみ衣をぬ紙へてまれむしさきれをとこん
うへしとなるとなるそれさくなれは君とこしてや家もとはん
古衣　こちるのありまけり
君うへし一村まつ紙出のねのしけきのへともありにけるな
我やとれいさゝ小川のまし水ぬまこそそしふ君ひとりをを
後
打もへてゝをとしこのむ四照の松をとるあきれをにもつる
古枝下

[illegible]

[illegible]

伊勢力

世中[illegible]

後雜一　兼輔

人の[illegible]

[illegible]

人の世の[illegible]

後雜三　[illegible]

我[illegible]

人[illegible]

拾賀　伊勢力

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

催馬楽

[illegible]

[illegible]

古[illegible]下

[illegible]

後冬

[illegible]

後冬

[illegible]

古来上

よみ人しらず

ありつれハ袖とそ[illegible]へ梅の花ありとやあらにうらひ[illegible]

後拾

梅ゝを梅の花ハ[illegible]

中原致時

古

世のうきめみゝぬ山路へいらんにハ[illegible]人[illegible]

後雜一

兼輔

人のあやめ[illegible]

後意三

[illegible]

古意三

よみ人しらず

[illegible]

後来中

[illegible]

古意三

よみ人しらず

[illegible]

後拾来下

つらゆき

[illegible]

伊勢

[illegible]

伊勢

[illegible]

伊勢

[illegible]

後意四　伊勢力

我やとこのむしろのふ忘しかゝるほとをさしこそはやめ

僧馬来

遊しこのやむしろのうゝぬきはやまむつるれ　二段まむ

つるのやまむつるのうのとを我うさしてそあそひあへる

美代りてそあそひあへる

ぎんひんそうび

とのくるはあつき浪しとけき都のうちはすまぬまきれり

拾抽名　よこ人しらす

勇をすてゝ山に入し我なれは海のうらうんともなほしさ

古意一　よこ人しらす

ちふきれしきしきてぬなくふのふ紀人我人をしらしあん

世中は夏のまゝ紀たり紀たりしつゝものをこそ物へ

やまもこゝろふく地のそのに精まれてあらんなきこゝろの都

吹くまもんしあらはこのまゝ乃さらくはうさてちらさはなん

久まのはなかつらもなるたゝ家のうををとゝまてしなる

六帖六

ミやまゝ木にうるはきそぬるたゝ雪ぬけたうへくんことをこそ

古意二　業平朝臣

ミすをあらすなきぬ人の意しくはあやなくはあやなくめくらさん

ヨうれ下

古意下　ミつ

ちふのミとまゝ我ぬ時にはもこれとやすれたるのうまゝ

古秋下　清しゆき

ちりやかる秋のうきにたゝふくまも秋はあへしこうひはり

拾秋　能宣

[illegible]

伊勢守

秋のよ[illegible]

花のよ[illegible]

[illegible]

万

[illegible]

俗言集

[illegible]

貝平親王

[illegible]

本

[illegible]

[illegible]

小町集

人[illegible]

古雜上

[illegible]

古

[illegible]

古意一

[illegible]

古秋上

[illegible]

古雜下

[illegible]

あ[illegible]

古今 春下　よみ人しらず

まてといふにちらてしとまる物ならはなにをさくらに思ひまさまし

伊勢

ちれはこそいとゝさくらはめてたけれうき世になにか久しかるへき

万

夕やみはみちたと〳〵し月まちていませわかせこそのまにもみん

[illegible]

[illegible]

拾遺 恋五　一条摂政

あはれともいふへき人はおもほえて身のいたつらになりぬへきかな

後拾遺 恋四　大弐三位

恋しさのうきにまきるゝ物ならは又二たひと君をみましや

古今 雑　[illegible]

[illegible]

古今 春上

さくら色に衣はふかくそめてきん花のちりなん後のかたみに

古今 哀傷

[illegible]

[illegible]

拾遺 恋五　[illegible]

[illegible]

[illegible]

古今 恋二　よみ人しらず

夏むしの身をいたつらになすこともひとつおもひによりてなりけり

古今 恋一　よみ人しらず

古今恋四
伊勢のあまの朝な夕なにかつくてふみるめに人をあくよしもがな　よみ人しらず
よのこゝろえん

拾遺恋
[illegible]　よみ人しらず

拾遺雑上
世中にあらぬところもえてしかなとしふりにたるかたちかくさん　よみ人しらず

古今春下
春ごとに花のさかりはありなめどあひみん事はいのちなりけり　よみ人しらず

古今雑下
今さらに何おひいづらん竹の子のうきふししげき世とはしらずや　みつね

古今哀傷
君がうへし一むらすゝき虫のねのしげき野べともなりにけるかな　みはるのありすけ

後拾遺雑一　大納言経信母
[illegible]
あさぢふの小篠が原にをく露ぞ世のうきつまと思ひみだるゝ
[illegible]

古今秋上
白雲にはねうちかはしとぶ雁のかずさへ見ゆる秋の夜の月　よみ人しらず
秋風にはつかりがねぞきこゆなるたがたまづさをかけてきつらん
我かどにいなおほせ鳥のなくなへにけさふく風にかりはきにけり

古今恋一
あはれてふことだになくは何をかはこひのみだれのつかねをにせん　よみ人しらず

催馬楽
[illegible]入さの山のあらゝぎ手なとりふれそやかほまさるかにや
まさるかにやとくまさるかにや

古秋上
くちなしと云ふに露ぞおきてあきのゝをみなへし
　　　　　　　　　　　　　　　　　素性
古秋下　　　　　　　　　　　　　平貞文
あらそひかねてまだきよりうつろひにけり
後秋中　　　　　　　　　　　　　敦忠
ひとりして秋はなきものと…
後冬　　　　　　　　　　　　　　雅正
… 源信明
後春下
あたら夜の月と花とを同じくは…
花山院
…

あまの原ふりさけ見ればかすがなる…
拾遺三　　　　　　　　　　　　　よみ人しらず
かりそめの…
新古今下　　　　　　　　　　　　徽子女王
…
夕されば
千載下　　　　　　　　　　　　　西行法師
ちる花を…
後拾下　　　　　　　　　　　　　つらゆき
…
古秋上　　　　　　　　　　　　　よみ人しらず
秋の野に…
大和物語

ちりとそやれとあへまてはやらつるくてといさくさくにうちに散れ

神楽哥
その駒そや我にくさこふくさはかうん水はとり
草はとりかへん

後拾遺恋四　　　和泉式部
君こふる心はちゝにくたくれとひとつもうせぬものにそありける
わすらるゝ身をはおもはすちかひてし人のいのちのおしくもあるかな

古今恋下　　　みちのく
あかさりし袖の中にやいりにけん我たましゐのなき心ちする

古今恋下　　　こまち
身はすてつこゝろをたにもはふらさしつゐにはいかゝなるとしるへく
秋の野になまめきたてる女良花一夜はかりやとまるかさらん

玉葉恋一　　　人丸
人はしる我はしらさる秋恋つけまつらんよしもかなと
かねてより思ひつゝまちし恋なれとかくはかりなる物とやはしる

古今恋　　　小町
今はとてわか身しくれにふりぬれはことのはさへにうつろひにけり

古今恋上　　　よみ人しらす
日くらしのなきぬるときそ今日は人をおもふらん身のうへはたれ
いつはりのなき世なりせはいかはかり人のことのはうれしからまし
身のうさはいきてのちにもなをつらし世はうきものとおもひしらなん

古今別　　　つらゆき
命にもまさりておしくある物はみはてぬ夢のさむるなりけり

拾遺恋四　　　よみ人しらす
風ふけはゆくへもしらすなりにけりいまはたかやすらふはなのいろ

万
夏ゆきに何ともしらず雨れとも我もまもらふしひの志に
古別　志ろめ
命さふんにふるふものなるかりけれのうなしうゝ遠
古意二　よみ人志らず
秋なれハ山とよむまでなく麻ゆきれなさらめやひとりぬるハ
秋のゝ秋のひかりにあらんれたらふの山をうゝぬへなる
後表　伊勢
なる人のうけさにうゝぬやつ水なそこに泪をなしてそこに
いふしていふよりうんをの山今人なるとなつる者遠の澄
うゝ海方に物ありてそんさうちにぬやさつゝき意を　まるうゝ
新古意又　よみ人しらず
ひるさそよりハやうるやまとうぬけみる時そ何なれなる

古謝　よみ人志らず
あるぬやとんそそしおひうゝ公ぬとふれかくさまてそ意
いひそハたらんなりしさ志なる本当後の様かけしき
みのり　あらず八
拾表　行基
法花經をわらえしとハたらなつゝ水ゝつゝへてそ
古意一　つゝゆき
山橋ゝすゝ鳴るより泪のうゝ水もこに人をそ意しなるそれ
古表上　よみ人志らず
もゝちとりさゝつる表ハ抱とにおゝなれとも見そふり　ゆく
討花秋　和泉式ア
秋ゝハいるる風のいろなれ物ふれ為ふ　泉式ア

やくとせはきてをきぬへきとにくにせひみくるうるやせ
後拾遺二　高内侍
あらしきの家ハ称はをれけるを草葉のうへをもにせひそん
後拾遺二　菅原隆方
くるまいちとせ残すくにんちして松ハ海とにひさしそう
拾遺　和泉式部
くらきよりくらきにまそ大ぬへきをるふてをぬのを此
古遺
うつをしかし残しつとなくさしのかくさしかしかしてそ
伊勢集
よりをあひてなくなる声をなにはてやるをこをいをまぬ
後遺　伊勢
いちをせもいかをなくれをうき秋のをんとも世ぬ

新古遺　傳正遍昭
来の家ハ此下やよれ中のをくれさにしのぬめしなるん
哀かれの時ハをとしとしせへをやうきはの事をんの後ん
拾遺一　よこ人志しす
俺つとしきのふかうへをしてきそやわ身ぬきりなるん
まかる
後遺下　みつ
いりくとも去のひろうへわるふまくこみしぬ山をやる
よこ人しらす
なめくさくとそめかれ自ふれ荒れてをやを　ちまこ
拾雑上　もとまけ
浮世ハいりくれなてうれなりなるのかまとおるうる
あすうりんのうちになるれいそてぬしくみいりよとまん

古表

[illegible]

拾雜表

[illegible]

菅家

古表一

[illegible]

後表中

[illegible]

古表

[illegible]

古雜下

[illegible]

世中[illegible]

古表

[illegible]

後表

[illegible]

古表四

[illegible]

六帖四

[illegible]

伊勢

古状上

[illegible]

秋ハ為我々まつれそこなるゝね我の上風を花のまつこゝ
我身ハ分なしきとおつきをとゝ分ふをまてとも思ふ
後長　玄上朝臣
りつきとふ物きゐし秋の春りうりくらんものとおひかけ
神を見ひつと思ふれハつりしらとく袖ひつゝありハなるや
やれハ物しやらひハ今よこしぬやしたなくとうへきまり
うひなりとおひなるとひそ水をさ此ハちとをみくこゝなり
後冬　あつくの朝臣
物ふとをくらす日もしらぬまにとしをふまてあるさく
少弁ふ宮
まつ宮の恵物ハ此ゆ花なれハあつゝをにはれそぬまぬる
古秋上　そせいはし
ゆしらぬかたゝ此ゆへれ秋のよたゝぬきらぬ遠ゐなるゝ

古春上　よこ人しらまて
梅の花にちよるうりあり人のさらむるうゆそしらるる
古秋上　同
秋たき我しらしこふまてなく鹿のめふみまてしるのさや
古春上　こつ
春のよしやこハあやしき梅の花いろそみしらやかくるゝ
永子
やをとめハしらやをとめそしらやをとゝみんさひやし女二品
神のまゝ寸これこやしらる
紅梅　友則
古春上
恵なくてこれよこまん梅の花いろをもうをもしる人をしる
恨ての後さ人のつくのしやいろふいひてう稀我もあるほし

後嵯上

[illegible]

後嵯下

[illegible]

行川

古嵯上

[illegible]

催馬楽

梅[illegible]

催馬楽

[illegible]

催馬楽

行川[illegible]

[illegible]

古賀

[illegible]

後夏

[illegible]

古嵯上

[illegible]

後嵯中

[illegible]

後後拾嵯四

[illegible]

古嵯

[illegible]

偖馬系

行川のたゝれ　　そうまゝ

古雲上

雲の紀乃やゝはあや臣梅の花多なそみらひやかつる

偖馬系

此ものハむへすとゝかり　　御書まゝ

ゝ人志らす

拾雜上

世中せくいひくてもてくハいふやいりまるらんとまゝらん

ゝ見人志らす

新古意一

あゝまゝ後の名ハ成てなるひさちおひの世とりりもあれんとそ思ふ

たしひ先

菅家法記

みる石のおりそに拙かくさらき行れやしハつゝさアしを

大和拙語

なる紀人のまゝとうにさゝやとなる今き成今りとうへるそふ成るさ

大和

雲ゐゆてこゝをふ此ハ成り海れあめのまゝにそいけるひ孫

ほゝこれひろふきまゝせ足引山きなりてと成ゝらす

古雜下

居のくるゝ此ハあさ雲ゐれ此ハ世ひつきをぬ世中ハ成さ

拾衣　　実方朝臣

そふよりハ家ハのちもおりすもちす此ハ今の海とちされ

古雜下　　きまん法し

ひりかハ紀のさらゝまゝそもむ世成うちやまと人ハいふ也

うもそくらせこなふ山のまゝあるをもしとこふあら

古秋上　　そきい　　孫を

ぬしさしぬかそこにかかへれ秋のくまたかぬきに遠き夜をも

古雜下　　よこ人さしらす

世にふれはうさこそまされみよしの山の嵐ゆゑ也してん

伊勢

我ありておひしこと我をそふれハ十とひつくろ心にそう

六帖

うち風ひをのかゝ袖はれをそなくあさるまてふ人のつさに

古意四　　よこ人さしらす

さむさしらは夜ゆゑ遠きこゝろひもや我をまつらんうち風ひめ

さすさかの志同くまぬるゆゑ地ゆへ勇さへ行て色おもなゆゑ

拾雜上　　秋二女法

ことのゆふ山の山風かゝふ也いつれのおもりさしへそめそん

後雜下　　兼輔

ひさへにきりかゝるしき山ち夜きさるうあき夜やしるん

古雜上　　あんけいはし

かくちとそこやまかくれのうちにあるれ夜ゆゑ花ふちさん夜ん

うきつらう泥ハ今年をもあるゆゑ也ますれ也思ふ人やちうん

志ゐうもと

古意五　　よこ人さしらす

わきしるゆゑ我うち橋の中あゝ元人色をよりぬとしを今ゆゑ

橋さくさくしの山のさくらはおちつさくらあれハさく橋あり

いなむさしろ川をひ柳みゆをハおきふしまれとそのねこあす

偕る系

さくらへそのふねちゝめますつくを　　うすやうまゝ

後意四　　伊勢

我やとくこのむかしの山道いらハ道遠きをさしてそハをめ

続古去下　　赤人

去のふすまれ[illegible]のをちのしを一夜ねなり

河海

わきてしを何ものしん杜の[illegible]にかれもなくなひくおもかは

後嵯三　　仲正

あゆきちゆきなるへてもこしらかな関のしるへなひらかな

後拾去上　　上東門院

あひやまさ手みとめくる山さとに[illegible]のちるれつれく

後杜上　　よこ人しらせて

松[illegible]れ[illegible]ふ杜[illegible]ふきそめにけり

古嵯三　　よこ人しらす

あゆきちひとりくさひしかはされよそへてあち夜きん

古哀　　なりひら

つゆはゆくたとはなりてほしらときのふそふとはいはさりしを

あきめよのかなるにやこふしをあくそとひしこ[illegible]や　　兼平

古二十

さけ海ひの海川に海とめてしりかへけ[illegible]ん

後杜下　　友則

こゝそくなれそしぬへき杜きりに友海とはなる庵にあらねと

古哀　　こゝ[illegible]

君夜ちつるいとなひ人のあふ[illegible]海のをとそなりける

古雜下　　よこ人しらす

鴈のつるこれ[illegible]きりたれ世のこしひつきをぬ世の中[illegible]さ

新古哀　　僧正遍昭

来の[illegible]りとの[illegible]や世[illegible]中のをとれさ[illegible]りなるん

古雅下　　よこ人こゝろまて

世にふれなくさこそまきれぬかれぬ岩のかけみちまきなしてん

伊勢大輔集

おく山の松葉にこほりをこゝろ見我身ふかふことそ遠き

古意四　　小町

あまぬすむ里にしるへにあらなくふらこんと此人の宿

拾抱名　　高岡草春

沖なひのこむろ此花やくろるん立田の川の名のこれる

大和抱譜

おさか山かけさへみゆる山のゐ此おさくに人をおりふとのうそ

古秋下　　僧正遍昭

こひ人のわさそ立ちうる木此とにのむかけなくもみちかり

うそそくうせこなふ山の高ゐかもあれそハくしとこにしあらねハ

拾雜旋以　　人丸

如のをとに春のうをは此あれろそありつくもあらきまきん

こ海くさにをん

拾衣　　聖徳太子

あるてるやうこをう山ぬまうへてふをるさひ人おれおや遠

以巻之有　　白哥

山さくらふりふあらうまゐきそおほかほをおりてけるふ

あけまし記

古意四　　よこ人しらす

身をうしとしふまきこの抱なれなくてもへゆる世にこそ絶れ

万

をとめすかうこを此さるとうちをうけるむ時遠ふ意やるかな

伊勢集

よりあひてなくなるこゑをそ糸にしてわり洞をはらはぬなん

古畫鞫　つらゆき

糸まとゝる拖をはなすまわれちの山はそくも物はゆるゝな

催馬楽

あをまきやとうとうひろたろやとうとうさうりて孫

これとまろひあひそりとうとうとうとうあひまそう

とうしく

古意一　よ見人しらせ

くさいと成よりなくなるにたるけてあらすは何成恋の故に

古雜上　まんけいはし

かくちこそこゝ山かくれの柄木なれ山の花にちるさはたりなん

古秋下　俤正遍昭

見ひ人のわきて意よりまれ此はなのむかけなくもみちらかり

樹下集

柴の居こけのこゝろも深草を何に松の系なるゝ時はなりとう

おく山のたれぬ時面そまひ人の袖のいろをはいとゝましけり

まさしきゝぬ曉おきれ別にみちさまとふものゆそしけり

古意一　よこゝ八しらまし

とふ名此ゑをきこしぬおく山のふきん成人をしらるゝん

よりすくらこけさりつゝいとゝ袖なるゝにひしくおもはゆる

後意又　伊勢

いるせともいひたるゝ此をうき地ハ勇成のともをぬ世なり

六帖

世中をとしといひてもいつまゝ勇成ハくさん山なし此ゑ

知ゝつゝこゝなるゝぬ木まちりやゝる袖をつてふるゝぬ木を

古意三　みつ子

あらしとも思ひそたてぬ首よりあふひとうら此秋のよるれ
万
わうきなうのちを此山のうちまてふあらんうるすけふるしは
六帖
為ろうへしと今すはかきのうみよ勇もちをつへきんちにされ
家はをけと我あるやとの岩杉えはくこそ杜をしすうなれ
古秋下
あるしえ紙なて木此のうしふはしこそ杜のうしめ成れ
古意四
ゆうはうくたるしは小舟に紀へりあ道人にや意わうなん
古雛
杜乃聖にる風めにてうをこるしあるしは道花も一時
後別
源淑

りきにをしらぬあらうこ此なしきはたらめ此へはあつる此なう
あふるはをを山鳥此をあかすあらすそと我ありしつるれ
万
わうまぬまあ杜をまにをめて我をやへさてんまつて
六帖
世の人のうろくまあこそれ思ふをつしうきはあのます
拾遺
世中を何にあるとうん我はをあれりあのあとのしらなこ
物しられ此山さといるうんもむ人さへや他乃ぬるうん
古雛
あるまぬやとんこうそうあひうはいはらむれくきまてそ意しき
古意四
夏中さはらあとはみしは我あくまうあるまをまてつる身なれを

後拾下　ちかぬあ

うち山の紅葉をとゝす[illegible]日をもしらぬ[illegible]

いかるれはあふ[illegible]海そうるてふ人をみるあふぬあてあひ[illegible]

後拾上　よみ人しらす

七夕のあまの[illegible]ことひさへをちてこゝのつれなるらん

あみちに[illegible]れてとまるあしろよ白波もまてこゝらぬ[illegible]

古意四　よみ人しらす

いそ人のみそ[illegible]しんいそふことにして

とりかへしてこのまゝうるや世中をあしあらぬ[illegible]

伊勢

うらわかゝ[illegible]

伊勢

[illegible]

新古雜下　蜉丸

世中はいそてとくてをおほ[illegible]

拾意一　よみ人しらす

たゝちはれ[illegible]やのいきめ[illegible]

古意　つらゆき

あすしらぬわかゝ[illegible]

[illegible]

[illegible]

後

あられ[illegible]

拾意四　人丸

みなと[illegible]

みなとの[illegible]

古哀

うれきこゝろ我みつもなくさこゝろあくさの山をかりこゝろそ

俗語稽延

拾哀

よこゝ人しらす

山ちの入あひ乃ひ此をとにそ山をとられぬと男をなるしき

ちりひつこと此あまくに此ぬれ分ののやしろすみなれぬ

いそて我つれなき人ゆゑ我へてくるしき地とおもひしをん

さしらひ

古雜上

ふるの里まこち

日のひろやかしわれハいそ此ぬこふりあさとに花をさしそう

後夏

雅正

花とろ此ぬをもまも様我もいそろに抱うろ男なまくすのこゝ也

あさしこさましともいそ寸ふ地ハ

古春上

春の夜乃やゝハあやあし様の若のろこそみこ子ろやハらくて

遠しくハなそをみこ此人へてよいそを此様のうふこそうも

古雜下

よこゝ人しらす

いさあらふわう世ハへなん菅原やかしのさと此ぬれまくはあ

いせ

古春上

春霞さろ我こすそこもりハ菅ゐ紀里にはこゝやなこゝ今

拾哀

乃信

かきうあれハ今ふぬきすそ夏衣そてゐ紀ハ洞なりり

中務集

花の此ゆまに我をまれぬまことに宮我かれ此しこゝ

古哀又

なりしら

日やあしぬまや若此ぬまゐ此ぬつ男ひとのこゝ

古夏

よこゝ人しらす

宿まり花ぞちる春の色をはむかし見し人のまゝにみえけり
みどりのまゝすみ世の緑あかぬ身のうきはよそにも捨てがたき
拾遺又　昨日ゆきし
今さのみ身ひとつにのみ思ひの世をうらみつゝあり
後撰三　小町
みつくらからしきのわたりの月を波よりほかにおもひやるかな
郎縁
君されはいつまでとちぎるもんむつ世こそ折ぎま
いのちのつゆのまそはゞこそ憂世にはつらきは流れる　かれ
續萬葉　まれあふや
この度は思へはとみえても　えてまさる
ちらへるも御まもや世中をあはしちるこれ我身をとらん
万

志賀てゝやまの井の水くにて我がまみるてりくち　ゑて
拾遺上　恵慶
あさくら花しちるまやさ梅花やまくるやくまにらん
やまざくら
伊勢
あらくあなくさことに此々にくれかりしとむまらひ起
なそうてき氷まかあらくのまそ餞すまのとこひすらふ
あまかいつとまるり花咲やあるひきさそうらひ
古今秋上　このうれ
ちとちしらとうてうかもてらまちまとしはてそうとし
古今離別　皇むちの里まで
さとはあれて人はふりにし宿なれや庭もまがきも秋の野らなる
古今秋上　遍昭

何をもの[illegible]

古秋之

日ハ[illegible]

[illegible]

世や[illegible]

[illegible]

新古意又

[illegible]

教風女

[illegible]

拾表

[illegible]

中務

古意四

[illegible]

[illegible]

[illegible]

古帖

人[illegible]

拾冬

[illegible]

後西園[illegible]

[illegible]

伊勢

[illegible]

後雜二

[illegible]

実忠[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

和泉式ア

秋ぞくハいつもうつるの風なれハ角あしむつう衰なるらん

古雅下　よこ人しら寸

鷹のうる鼠のあさきうも風をれこひつさをぬ世中のさ

古雅下　よこ人しら寸

いつもうん思ほの中にはまはう毎のうれとなきてときらん

拾意又　つゝゆき

冬くれ秋月ひとりのうれ今にはるへての世代もうしみつる

俗語集　あしまこも

いせのうこれきこれ　兼輔

後雅一

人のおやれやこにあらねとも子ふみつゝ夜とひぬ

古雅上　よこ人しら寸

おうつれハ袖にそあるへ掛れ死ありとやあらひをぬる

新古雅下　延喜古製

くてこそこそ今りそれ万代をかけてあるへ数なるこれ

俗語集

あるくうとくふのくうとさや　ととめまこも

人丸

夕されハのへまちくなるかれ鳥ぬれにみつますこれ

あけまる

新古意一　源重之

ぬくれ山ハ山ハ山をしけれ　ひ命はさつくさ分り

後拾名　よこ人しら寸

あつまゆてやしなれ人のよハしてなこそ拾ひ

古林上　おきうを

おうりそんそつくき七夕ぬしに一度あふまあふうれ

古雜上　よみ人しらず

[illegible]

後雜一　四条法息不女

[illegible]

拾意又　つゝゆき

[illegible]

伊勢

[illegible]

伊勢

[illegible]

伊勢

[illegible]

[illegible]

古意一　よみ人しらず

[illegible]

古雜下　よみ人しらず

[illegible]

新古雜下　よみ人しらず

[illegible]

拾秋　いせ

[illegible]

拾雜上　よみ人しらず

古意上

[illegible]

古雅

[illegible]

古雲滅

[illegible]

伊勢

[illegible]

万

[illegible]

古意又

[illegible]

拾意四

人丸

[illegible]

古意一

[illegible]

新勅意四

[illegible]

古雅下

小町

[illegible]

伊勢

[illegible]

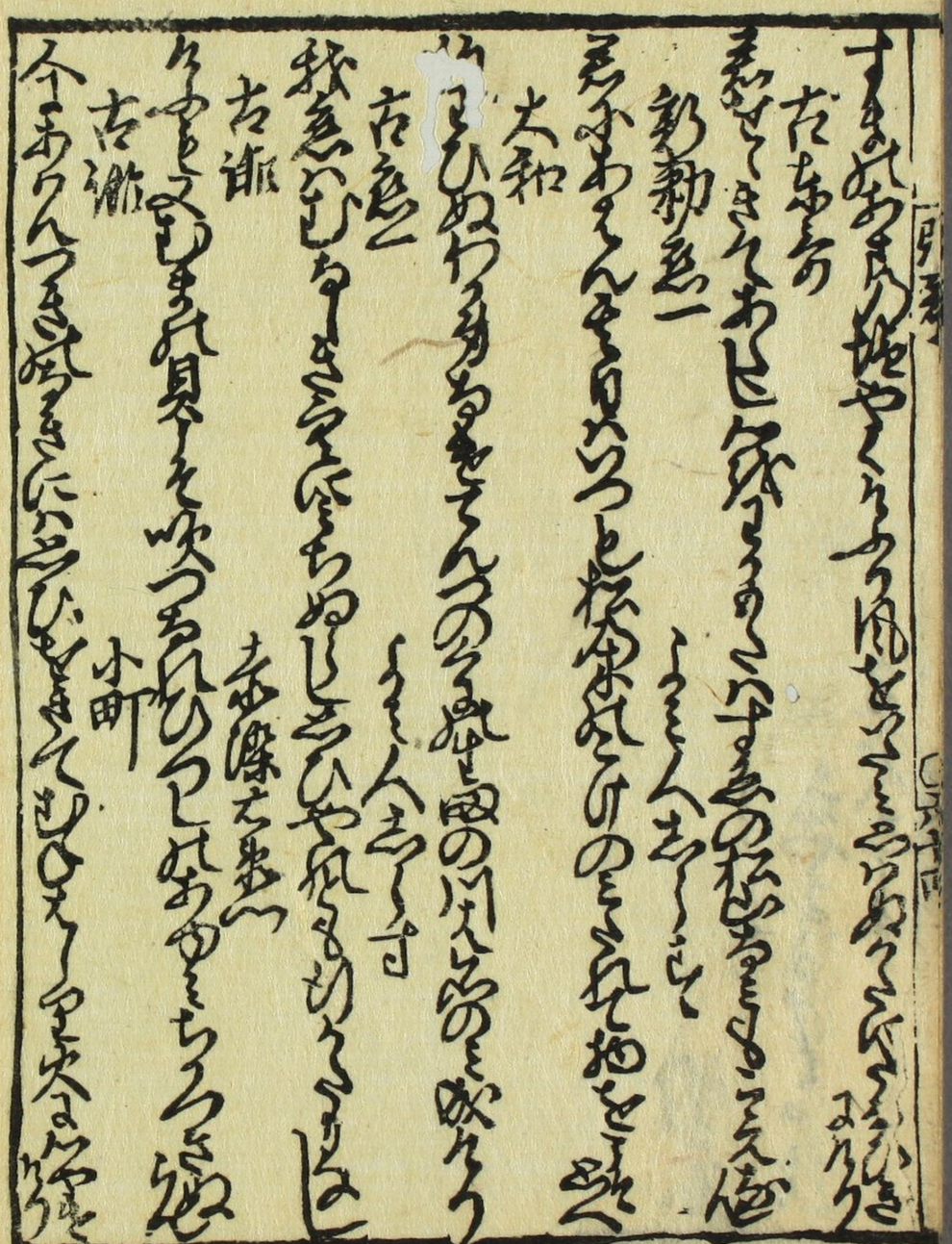
催馬楽

[illegible]

古意四

[illegible]

すまれぬ[illegible]やくそ[illegible]



古[illegible]

[illegible]

新勅[illegible]一

[illegible]

大和

[illegible]

古[illegible]

[illegible]

古[illegible]

[illegible]

古[illegible]

[illegible]

小町

[illegible]

伊勢

[illegible]

義孝集

[illegible]

古[illegible]一

[illegible]

古[illegible]

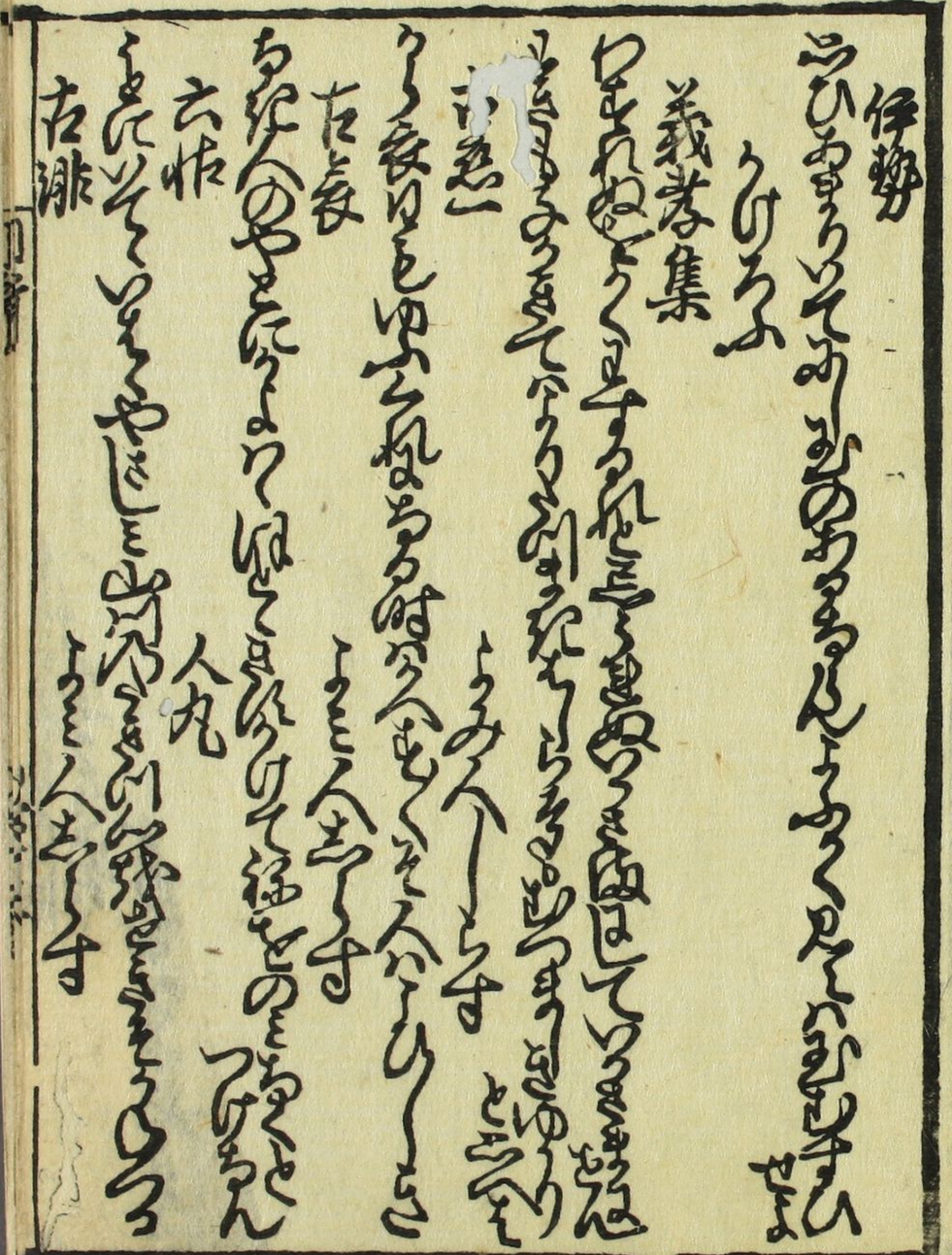
[illegible]

六帖

[illegible]

古[illegible]

[illegible]



世中ぬけ[illegible]ひとにも[illegible]ぬけ[illegible]さ[illegible]そ[illegible]
みすけ[illegible]みねの[illegible]
古拙名
波の花[illegible]
後張
[illegible]
[illegible]
[illegible]
古杖上
[illegible]
古杖上
[illegible]

[illegible]
[illegible]
伊勢
百[illegible]
[illegible]
伊勢
[illegible]
拾雜上
世中にあらぬ[illegible]
拾雜杖
[illegible]
新古杖上
[illegible]
小町

誰をかまつち松山のをとゝ山も松をちきれる人をあはしき
古誰　よこ人しらす
恋をこそなるんをすれば女郎恋うてあるさ海のあまをそ
新古杖上　[illegible]
これをかまつちの山の　よこ山
古杖上　[illegible]
山里は松をそことにまとひ　かれ廉のなく袖にもとさまて
古雜下　をのこよしな
世のうきめみぬ山路へ　[illegible]
後書下　信明
あくこと[illegible]と花とをあはしく　[illegible]
松風の奏此哥
[illegible]

古旅杖
もつき川ある川のへに二すとき板弁をへて冬るあひえん
うき海の奏　二本ある板
[illegible]
拾遺四　[illegible]
[illegible]
後雜三　遍昭
[illegible]
うき海奏
[illegible]
古十五　[illegible]
[illegible]
拾雜書　中務卿具平親王